

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立落合第二小学校

■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1】

授業作り	重点	・児童が主体的に学習を進められるように <u>ゴールイメージをしっかりともたせた授業づくり</u> をする。また <u>児童が問題を解決するための手だてを自分で選択できる授業づくり</u> に努める。また、「学び合い」の場を意図的に設定し <u>対話や効果的な ICT 機器の活用を通して</u> 自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
環境作り		・教室前面の視覚的刺激を調整し、時間の視覚化や学習の見通しを提示するなど、児童が学びやすい環境を整える。タブレット端末の活用、個に応じた教材の準備など、一人ひとりに応じた個別の配慮等、ユニバーサルデザインの視点で環境づくりを行う。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none">・話を最後まで聞く姿勢を身に付けさせる。・正しい平仮名や片仮名、漢字、助詞の使い方を習得させる。 ⇒ドリルや漢字ノートなどを活用して、字形や筆順に気を付けて、丁寧に漢字やカタカナを書くことができた。定着していないところがあるため反復練習をしていく。【10月】・語彙力を増やし、話したり、書いたりして適切に活用できるようにする。・10までの数、20より大きい数などでは、具体物を活用し、数の構成を理解させる。・既習事項を確認したり、練習問題に取り組ませたりして、文章問題で問われていることを理解し、自力で解決ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・話している人に体を向け、最後まで聞くよう継続指導をする。・国語の時間を中心とした視写の機会の確保、細目に漢字の小テストを実施し定着をめざす。・児童が見付けた言葉や授業等で使った言葉を「言葉の宝箱」に保存し活用する。 ⇒単元毎にワークシートを活用し、書く機会を多く取り入れる。また、授業以外にも「あのねノート」を活用し、文章を書く習慣を付けていく。【10月】・計算カードやデジタルドリルを活用する。・繰り上がりのある計算では、言葉でやり方を説明し、ブロック操作を通して数の構成を基に計算の仕方の理解を深めていく。・文章を丁寧に読み、大切な場所にアンダーラインを引くなどの継続的に指導する。

2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・字形に気を付けて、正しく丁寧に漢字を書く力を向上させる。 <p>⇒文章を書く際、既習の漢字を活用することが難しい児童がいるので、定着できるよう練習していく。【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力を向上させる。 ・10のまとまりや位を意識しながら、たし算やひき算を正確に解く力を伸ばす。 ・文章問題を理解し、正しく立式する力を向上させる。 <p>⇒繰り上がり、繰り下がりのある計算は、丁寧に取り組むことができた。【10月】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字ノートやデジタルドリル等を活用した反復練習をする。 ・型を提示して文を書く。 ・助詞や句読点に留意した作文指導を継続する。 <p>⇒単元ごとに振り返りの時間を設け、気が付いたことや自分の考えなどを、短い言葉で書く習慣を付けていく。【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作を取り入れて学習をする。 <p>・具体的な場면을絵や図等で整理し、数式に結び付ける。</p> <p>⇒計算の手順や繰り上げ・繰り下げを忘れないよう、適宜復習問題に取り組む時間を設ける。具体物に触れながら、図形を構成する要素への理解を深めていく。【10月】</p>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文に対して、自分の考えを詳しく文章にして書くことに課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の語彙が少なく、言葉の意味が分からないため、文章を読み取る力に課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を丁寧に書こうという意識はあるが、既習の漢字を使う習慣が十分に身に付いていない傾向にある。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章問題をしっかり読み解く力が弱く、立式に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子を正確に読み取る力を伸ばせるように読書の時間など日常から小説などの物語を積極的に読む習慣を身に付けさせる。 <p>⇒授業中は個別での読み取り後、ペアや小グループでのやり取りを行うことで、考えを広げるきっかけになっている。【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からない単語や表現が出てきたら、調べる習慣を身に付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から習った漢字を使う習慣を身に付けさせる。 <p>⇒漢字の定着については、個人差があり、特に急いで書くと既習の漢字も平仮名で書いてしまう傾向がある。【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数をまとまりにして考えられるようにし、数字の意味を考える習慣を身に付けさせる。 <p>⇒問題文から「分かっていること」「聞かれていること」を見つけ出し、正しく立式できるようになってきている。【10月】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引きながら前後の文章の関係性を考えて読むなど、中心となるキーワードを捉えさせる学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典の使い方の指導とともに、分からない語句を調べる時間を確保する。 ・言葉の宝箱を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや書きまるタイムを使った「書く」活動を行う。 <p>⇒日頃から使う習慣に加え、小テストやプリントを利用して、反復で練習する機会を設ける。【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりのある筆算の仕方を丁寧に指導する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題におけるケアレスミスがやや目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の反復練習を行い正しく計算できるようにする。 ⇒かけ算の筆算では、被乗数が大きくなるほど、繰り上がりでの細かなミスが見られた。計算後の見直しを習慣化できるようにしていく。【10月】 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルやプリント等で反復学習を行う。
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少なく、言葉の意味や使い方を理解する力に課題がある。 ・物語文の読み取りは比較的高い水準にあるが、文章の構成を理解することに課題がある。 ・かけ算九九をはじめとした、基本的な計算を正確に行うことができない児童が一定数いる。 ・新宿区学力定着度調査では文章問題で聞かれていることを読み取る力が弱く、正しく立式することに課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない単語や表現が出てきたら、調べる習慣を身に付けさせる。 ⇒辞書やタブレット端末を活用し、新しい文章と出会ったときには、個人やグループで意味調べをすることが習慣づいてきている。【10月】 ・「初め、中、終わり」等の文章の構成を自分の力で分けられるようにする。 ⇒接続詞に注目するだけでなく、各段落の内容を大まかに捉えながら、初め・中・終わりに分けられるよう学習を進めている。【10月】 ・4年生の児童全員が、かけ算九九をすらすら唱えられるようにする。 ・繰り上がりや繰り下がり等の計算を、位をそろえて、正確に行えるようにする。 ⇒わり算の筆算についても、位をそろえて正確に行えるようにする。【10月】 ・文章問題を正確に読み取り、何を求めるのか、自分の力で確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文指導の際、習った言葉を使うように促したり、新しい言葉を教えたりする。 ・「言葉の宝箱」を活用して言葉を増やしていく。 ・文章の構成を図に表す活動をしたり、段落ごとの内容を要約してつながりを考えたりする活動を設定する。 ⇒構成を図にすることで理解は深まっている。【10月】 ・日々の宿題や休み時間等を活用して補助学習を行う。基本的な計算の問題を解いたり、デジタルドリルに取り組んだり、かけ算九九を一人ずつ聞いたりする場を設定する。 ⇒一日一回わり算の筆算を行い、定着を図る。定着しきれていない児童には、個別指導を行う。【10月】 ・授業内で、問題把握の場面を丁寧に扱う。分かっていることと聞かれていることを確かめるよう指導を徹底する。
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や問題に対して、自分の考えを詳しく文章にして書くことに課題がある。 ・語彙が少なく、言葉の意味が分からないため、文章を読み取ったり表現したりする力に課題がある。 ・新宿区学力定着度調査の結果によると文章問題を正しく読み解く力が弱く、立式に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことについて、叙述をもとにしながら根拠を述べられる力を付ける。 ⇒叙述に注目する習慣が少しずつついてきている。文章を読むことに苦手意識がある児童が多いため、朝読書等を活用して文章を読む時間を増やす。【10月】 ・分からない単語、言葉、表現が出てきたら、自分で国語辞典を使って調べる習慣を身に付ける。 ⇒分からない言葉があるとすぐ友達や教師に頼りがちである。分からないことがあったときには、タブレット端末や辞書を活用し、自ら調べる声掛けを行い、習慣化を図る。【10月】 ・図や数直線を用いて考えたり、確かめたりすることを習慣化できるようにする。 ⇒4月当初に比べると自分から図や数直線を用いる児童が増えた。【10月】 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる文章にアンダーラインを引かせ、考えを説明する活動の設定をする。 ・辞書やタブレット端末を活用し、すぐに調べる習慣を身につけさせると共に言葉の宝箱に記入させる。 ・図や数直線で考えるよさを実感できる授業を展開する。 ⇒図や数直線を使って自分の考えを相手に伝える活動を増やし、図や数直線で考えるよさ、相手に伝えるよさを実感できる活動を増やす。【10月】

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠をもって説明できる力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と考え方を伝え合ったり、説明したりする活動の場を設定し、自分の考えを、根拠をもって説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 月】 ・考え方を伝え合ったり説明したりする。グループ活動を多く取り入れる。
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、全国や区の平均正答率より高い水準にあるが、「読むこと」の領域においては、区の平均正答率よりも低い水準にある。本文中の言葉や表現を根拠として考え、読み取ること課題がある。 ・全国学力学習状況調査の「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域において、全国や区の平均正答率より高い水準にあるが、「データの活用」の領域においては、区の平均正答率より低い水準である。グラフや表に慣れ親しむ機会を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことについて叙述をもとにしながら根拠を述べられる力を付けさせる。 ⇒4月当初に比べると、叙述を意識して読み取ることができる児童が増えてきた。【10月】 ・多様な表現方法を知り、それらを積極的に用いて文章を書くことができるようにする。 ・グラフや表から必要な情報を的確に読み取り、それを表現することができるようにする。 ・解き方を伝え合う活動を通して友達の解き方の良さに気づき、実践できるような授業を展開する。 ⇒「なるほど。そういうことか。」「自分と同じだ。」「この部分だけ自分と違う。」など、友達の解き方を自分の学びにつなげて考え、学びを深める様子が見られた。【10月】 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる文章にアンダーラインを引かせ、考えを説明する活動を設定する。 ⇒読み取ったことを文章だけでなく、絵として表現する活動も取り入れた。今後も単元によって継続していく。【10月】 ・国語辞典を積極的に活用する。 ・感情や様子を表す言葉や表現を使うように指導する。 ・優れた表現や文章を全体に共有する。 ・算数科だけでなく、社会科など様々な教科においてグラフや表に慣れ親しむ機会を増やし、読み取ったことを表現する機会を意図的に設ける。 ・解き方を説明し合うペア活動やグループ活動の設定を多くする。 ・児童にとって身近な話題やイメージしやすい題材を扱い、興味・関心をもって課題解決に取り組めるようにした。今後も継続していく。【10月】
特 別 支 援		<ul style="list-style-type: none"> ・日常に必要な言葉を増やし、日記等を書く機会を設け、書く力と伝える力を育成する。 ⇒タブレット端末を活用して日記等を毎日投稿することで、伝えたいという意欲が増している。【10月】 ・日常生活の様々な場面を想定し、計算、書き取りなどに取り組ませる。 ⇒各学年の社会や理科の内容を意識して取り組ませるなど、指導を工夫する。【10月】 ・個に応じた課題を達成させる。 ⇒小集団学習と個別学習の充実を図り、必要に応じて編成を変えた。【10月】 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において、発表等を通じた表現活動の充足を図る。 ・毎日の日課帳での振り返りを行う。 ⇒「5W1H」を意識して発表できるようにした。【10月】 ・タブレット端末を活用する。 ⇒タブレット端末を活用して係活動や行事の振り返りを行っている。【10月】 ・具体物の操作を取り入れた体験的な学習を設定する。 ・小集団学習と個別学習の充実を図る。